

詠遊興のたのしみは夢にもぞらず、今年も又此雪中に在る事かと、雪を悲は邊郷の寒國に生たる不幸といふべし、雪を觀て樂む人の、繁花の暖地に生たる、天幸を羨ざらんや、

〔骨董集 上編 上〕初雪の句 初雪や犬の足跡梅の花と云句は、何人のいひいだしたるにか、童もくちずさむ句也、五元集なつがれの巻云、雞去畫竹葉、是は五山派の僧雪の聯句に、犬走生梅花といへる對なり云々、右の聯句にもとづく歟、或は暗合したる歟、

〔曠野集〕雪二十句 大津にて
雪の日や船頭どの、顔の色
いざ行かん雪見にころぶ處まで

其角
芭蕉

〔續俳諧奇人談 上〕田氏捨女

捨子は丹波の國栢原田氏の女なり、少小より風流のきざし見ゆ、六歳の冬、雪の朝二の字ノの下駄の跡、

降雪見參
降雪賜物

〔西宮記 十一月〕初雪 初雪降者、依宣旨取諸陣見參給祿、

延長三年正月十四日、今朝雪七寸、令内藏助仲連、以綿一千屯、施給大内山御室道俗、以昨日寒今朝大雪也、

應和元年十一月七日、今朝初雪、分遣殿上侍臣於諸陣、帶刀取見參、又男女房主殿掃部者同預例也、十日令給民部卿藤原朝臣去七日諸陣所々見參、仰以大藏綿令給祿、

〔禁秘御抄 下〕雪山略 中 初雪見參近代絶畢、初雪日仰六位藏人、令取見參、藏人束帶或宿 召朝餉、仰之内侍傳仰藏人進見參給祿、内藏寮絹、大藏省布也、女房藏人已上絹一匹、主殿掃部女官信濃布

四段、下各二段、御厨子所得選各一匹、刀自各三段、此外御廁人、長女、内豎、主殿官人、史生、案主、下部、今良、諸陣府生、番長、舍人、依差給之、